

# 日点委通信

No. 5

1989年11月1日発行

## 日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1989年4月28日・29日の両日、東京都新宿区の戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）において、第24回総会を開催し、次の事項を協議した。出席委員は、本間会長はじめ18名、事務局員4名、オブザーバーは17名であった。

### 1. 点字表記法の検討

日本点字委員会が、現行の『改訂日本点字表記法』を刊行したのは1980年2月である。それから既に9年有余の歳月が経過している。この間、点字を常用する視覚障害者や点訳奉仕者、あるいは視覚障害教育や点字図書出版関係者などから、この『改訂日本点字表記法』の解説が不十分な点等について、多くの意見や要望が寄せられている。そうした状況を踏まえて、日本点字委員会では、第20回総会以降、点字表記法をより系統的でより活用しやすい内容に整理し直すべく検討を重ねてきている。今回は第23回総会以後、東北・関東・東海・北陸・関西の各地域で検討してきた成果を主に次の事項について協議した。

①現行28字以外の特殊音の表記の仕方と特殊音を増加するかどうかについて、②自立語内部の切れ続きについての基本的な拠りどころについて、③漢語名詞+する、副詞+する、などの切れ続きについて、④つなぎ符の使用基準について

### 2. 『日本点字表記法 1990年版』の刊行について

1990年は我が国の点字制定100周年に当たる。この点字制定100周年を機に『改訂日本点字表記法』の改訂版を刊行することは、先の第23回総会で決定している。改訂の基本方針は、現行の点字表記法の不都合な点を正し、必要な点字符号を追加すると

いう程度の手直しに留めることになっている。改訂版の具体的な内容は、表記法のルール編に当たる第1編「点字の表記」と、改訂の趣旨や要点、点字表記法の変遷、書き方の形式、付加記号類、点訳に当たっての留意事項、点字記号一覧などをまとめた第2編「参考資料」との2部構成とし、『日本点字表記法 1990年版——日本の点字制定100周年記念——』として、1990年11月1日刊行の予定である。

### 3. 委員の交替等について

学識経験委員で本会副会長であった及川巳佐男氏が1989年3月に北海道札幌盲学校長を退職したため、後任として大阪府立盲学校長の閑喜昭史氏（全日本盲学校教育研究会会長）が残任期間を引き継ぐこととなった。また、事務局員として天理教点字文庫の水谷吉文氏を新たに委嘱した。

## 日本の点字制定100周年記念事業について

日本点字委員会では、第22回総会において、日本の点字制定100周年の記念事業検討委員会を発足させ、事業内容の検討を開始した。具体的な事業としては、まず、点字制定100周年を記念した記念切手の発行を提唱し、文部省・厚生省の両省を通して、郵政省にその実現方を依頼した。また、100周年記念事業の企画・推進に当たっては、我が国の視覚障害関係団体の総意として実施できる組織と体制とを整えるべく、日本盲人福祉委員会・日本盲人会連合・日本盲人社会福祉施設協議会・全国盲学校長会・毎日新聞社点字毎日、並びに日本点字委員会の6者で、日本の点字制定100周年記念事業実行委員会を組織することになった。日本点字委員会からは、本間一夫会長・阿佐博副会長・下沢仁事務局長の3氏が代表委員として実行委員会に参画している。

記念事業実行委員会の委員長には日本盲人福祉委員会の実本博次理事長が、また、委員長に事故ある場合は、日本盲人会連合の村谷昌弘会長が委員長代理として委員会の運営に当たることとし、1990年11月1日の点字制定記念日に、東京都千代田区霞が関の全国社会福祉協議会ホールにおいて、記念式典と記念講演会を開催することになっている。そのほか、点字に関する展示会の開催や記念図書の発行など、社会一般に広く点字のことを知ってもらうための事業計画が検討されている。

## 『日本の点字』第15号で表記法の改善点公表

来年1990年11月1日の点字制定100周年記念日に向けて、点字表記法の改訂作業を続けてきた日本点字委員会は、現行の『改訂日本点字表記法』を『日本点字表記法1990年版——日本の点字制定100周年記念——』と改称することを決定し、『日本の点字』第15号において、点字表記のルール編に当たる部分の概要と『日本点字表記法』の全体構成とを中間報告の形で公表した。

主な内容は、①『日本点字表記法1990年版』の編集方針と原案の要約、②点字の記号の変更と追加、③自立語内部の切れ続きの原則、④動詞「する」の切れ続きに関する二つの意見、⑤『日本点字表記法1990年版』の目次案等である。

具体的な改善点としては、①小見出し符の変更、②墨字の表記符号との対応を図る必要性から、つなぎ符・段落挿入符・注記符・星印などの追加増設、③パーセント(%)・アンドマーク(&)・ナンバーマーク(#)・アスタリスク(\*)・置語符などの付加記号の新設、④外来語の書き表し方について審議を進めている今期の国語審議会の答申に対応する特殊音点字記号の追加の準備、⑤3拍以上の自立可能な意味の成分は区切り、2拍以下の副次な意味の成分は続けるという自立語内部の切れ続きの原則の提示、⑥用例の差しかえ、などを挙げることができる。

動詞「する」の切れ続きに関しては、従来「勉強する」のように「する」を含む複合動詞はひと続きに書くが、「受験勉強する」とか「英語の勉強する」などの場合は「する」の前を区切るという書き方になっているなどルールが複雑であるため、より単純・明快なルールとして、「する」は原則的にはその前を区切ることにしてはどうかということが改訂案として取り上げられ、現状維持の表記と改訂案の表記との二つの表記の仕方が例示されている。

各盲学校・点字図書館・点字出版所には、『日本の点字』第15号墨字版・点字版を既にお送りいたしました。その他に必要な方は、事務局にお申し込み下さい。なお、第1編「点字の表記」の原案は、実費(墨字・点字とも500円)でおわけしています。

## 頒 布 図 書 案 内

日本点字委員会では、現在次の図書を販売しています。

	(点 字 版)	(墨 字 版)
1	『改訂日本点字表記法』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 210 円)
2	『点字数学記号解説』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 210 円)
	『点字数学記号解説別冊』 3800 円 (送料無料)	
3	『点字理科記号解説』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 210 円)
4	『日本の点字 第9号』 300 円 (送料無料)	300円 (送料 175 円)
	(コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他)	
5	『日本の点字 第10号』 400 円 (送料無料)	(品 切)
	(国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他)	
6	『日本の点字 第11号』 400 円 (送料無料)	400円 (送料 210 円)
	(現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他)	
7	『日本の点字 第12号』 400 円 (送料無料)	400円 (送料 210 円)
	(外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他)	
8	『日本の点字 第13号』 500 円 (送料無料)	500円 (送料 210 円)
	(複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他)	
9	『日本の点字 第14号』 500 円 (送料無料)	500円 (送料 210 円)
	(「改定現代仮名遣い」原文 点字表記に関する調査報告 その他)	
10	『日本の点字 第15号』 500 円 (送料無料)	500 円 (送料 175 円)
	(『日本点字表記法 1990年版』の概要 その他)	

点字版の『点字数学記号解説別冊』はサーモフォーム印刷によるもので、数式等の形式をも含めた墨字数学記号と点字数学記号との対照表が主な内容です。

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

〒169 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(209)0241番

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 (郵便振替 東京0-42820)